

道徳の時間学習指導案

呉市立川尻中学校
指導者 河野 靖弘

- 1 日 時 平成25年7月8日（月）
- 2 年・組 第2学年A組（男子23人，女子15人，計38人），第2学年B組（男子23人，女子16人，計39人）
- 3 場 所 2年A組教室，2年B組教室
- 4 主題名 いろいろなものの見方や考え方から学ぶ 2－（5）謙虚に他に学ぶ
- 5 ねらい 加奈子の書き込みの内容や，忠告を受けた加奈子の気持ちを考えることを通して，それぞれの立場を尊重し，いろいろなものの見方や考え方から学ぶことの大切さを理解して，ネットワーク社会においてよりよい情報発信をする上での道徳的判断力を育てる。
- 6 資料名 「言葉の向こうに」（出典：文部科学省「中学校道徳読み物資料集」）

7 主題設定の理由

○ 主題観

本主題は，内容項目2－（5）「それぞれの個性や立場を尊重し，いろいろなものの見方や考え方があることを理解して，寛容の心を持ち謙虚に他に学ぶ。」をもとに設定したものである。

人間は，たいていの物事について，その全体を知り尽くすことは難しく，自分なりの角度や視点から物事を見ることが多い。そこで大切なことは，互いが相手の存在の独自性を認め，相手の考えや立場を尊重することである。その際に，開かれた心で他に対して謙虚に学んでいくことは，よりよい人間としての成長を促すためにも大切なことであり，違うものを違うと認め，ときには許す私心のない寛容の心，偏狭なもの見方や考え方のない広い心を育てることが求められる。

情報社会に生きる生徒は，インターネット等を通じて友人や仲間，同じ趣味・関心をもった人々との多様な交流を通して，さまざまな見方や考え方に合う。その際に，情報を吟味しながら収集・発信し，さまざまな見方や考え方を受け入れ，生かしていく視点をもつこと，また，情報を受け取る相手が不特定多数であることを意識した上で，情報発信の在り方について考えていくことは，情報モラルを身に付けていく上でも大切であると考えられる。

○ 生徒観

本学年の生徒は，各教科等で，4人グループでの学び合いを取り入れた授業に，日々取り組んでいる。「学び合いの授業が楽しい」と肯定的にとらえている生徒は，約90％であり，その理由として，意見交流等を通して，さまざまな意見を知ることができるという記述が多くみられた。そのことから，自分とは異なっても仲間の考えを受け入れようとする意識は育ってきていると考えられる。ただ，それは一つの小学校から本中学校へ入学してきていることもあって，同じ人間関係の中で過ごしてきていることが影響しているとも考えられる。卒業後に新たな人間関係のもとで生活していくことも踏まえると，新たな見方や考え方に合った時に，謙虚に学んでいこうとする姿勢をもつことは，本学年の生徒にとって大変重要であると考えられる。

また，インターネットの利用者は約95％，インターネットを使ってコミュニティサイトやブログ等を利用している生徒は約51％である。約半数の生徒が，インターネットを利用して，実際に書き込みをしたり，読んだりすることが日常化しており，情報社会を生きる上での正しい判断力を育てていくことは，ますます大切になる。

○ 指導観

本資料は，ヨーロッパのサッカーチームのA選手のファンで，インターネットでファン仲間との交流を楽しんでいる加奈子が主人公の資料である。ある試合をきっかけに，心ない書き込みが続いたことに怒った加奈子は自分もひどい言葉で応酬して注意されてしまう。自分の気持ちが理解されないことで，あらためて顔の見えないネットでの言葉のやり取りの難しさや恐ろしさに直面した加奈子が，読み手を忘れてしまっていた自分に気付く様子が描かれている。

指導に当たっては，自分も掲示板を見ている一人として，どのような内容を書き込むかと投げかけ，出てきた内容を交流し，類型化した上で，改めてネームカードを使って判断させ，話し合いを深めていく。また，中心発問「忠告の書き込みによって，加奈子はどんなことに気付いたのでしょう。」のあとに，「なぜ，加奈子は気持ちが変わったのか」と投げかけることで，謙虚に他に学ぶという主題に迫っていく。なお，導入におけるファンサイトの紹介や，展開のインターネット上の書き込みの場面を，パワーポイントで提示することで，より興味関心を高め，資料の内容をとらえやすくさせたい。

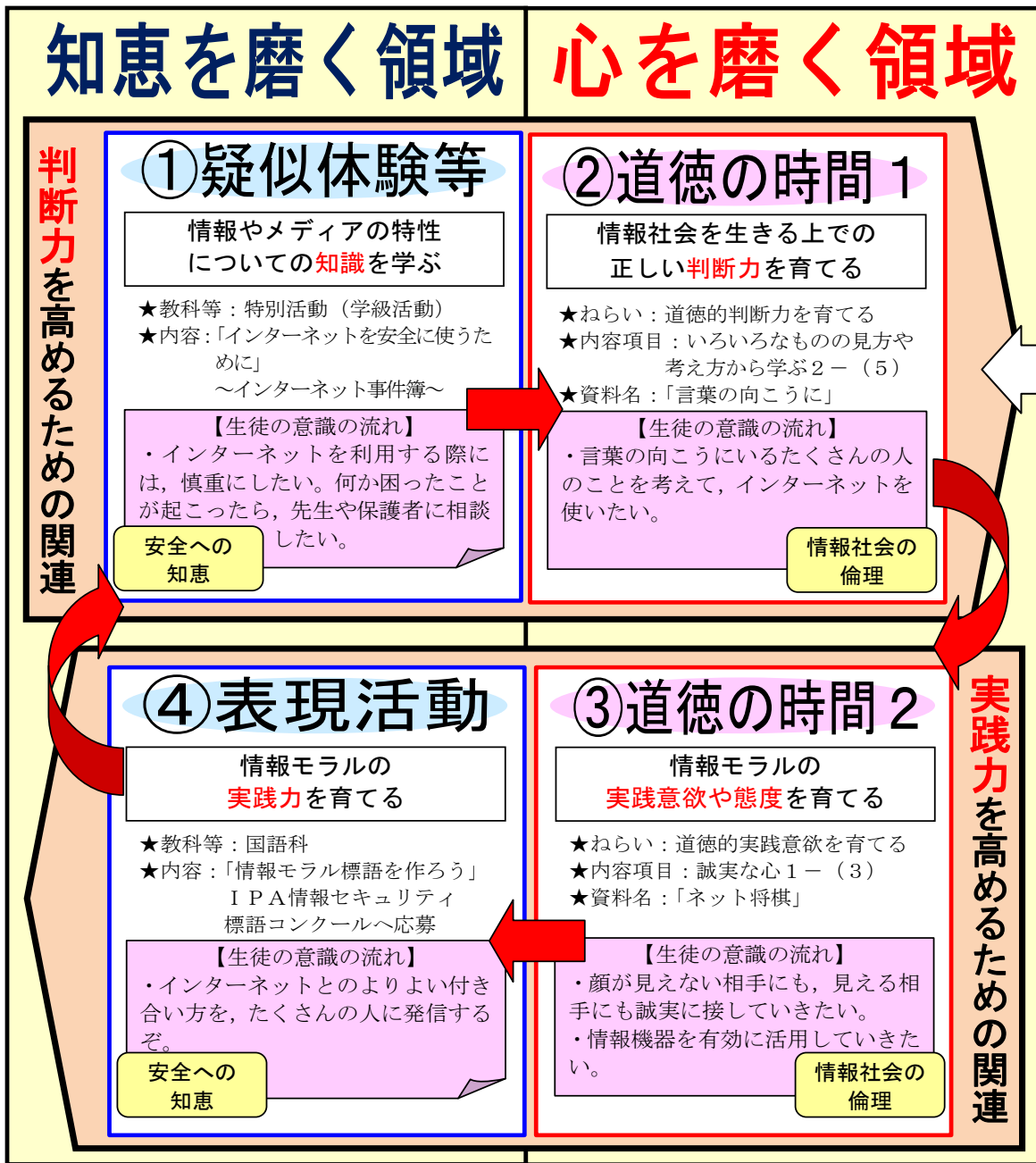
8 事前や事後の活動との関わり

本時は、以下に示した情報モラル学習プログラムにおいて、「心を磨く領域」の内容として、1度目の道徳の時間に位置づいており、道徳的判断力を育てることをねらっている。事前に、特別活動（学級活動）において「インターネットを安全に使うために」というテーマで、実際にパソコンを使って疑似体験をしている。そこで学んだ「インターネットで書き込みをする時には、慎重に行う。」という知識が、「あなたも掲示板を見ている一人として、書き込みをしてみよう。」という発問をもとに、話し合いをする際に意識できるようにする。また、今回の授業のキーワード「言葉の向こうにいる人々の顔」と、事後の道徳の授業のキーワード「顔が見えない相手」のつながりも意識しておきたい。

【インターネットを題材とした】
情報モラル学習プログラム

プログラムの
ねらい

ネットワークにおけるコミュニケーションのとり方について理解し、行動できるようにする。



【留意点】 日常的な指導・家庭との連携

	学習活動	主な発問と生徒の心の動き (○基本発問 ◎中心発問 ●情報モラルに関わる発問)	指導上の留意点(・) 評価の観点(*)
導入	1 掲示板クイズにチャレンジする。	○ この掲示板の書き込みは、どこのファンサイトのものでしょうか。 ・ 前田健太選手 ・ ドラマ「ガリレオ」	・ 批判的、攻撃的な書き込みも紹介しながら、展開につなぐ。
展開	2 資料「言葉の向こうに」を読んで、話し合う。(前半)	● あなたも掲示板を見ている一人として、書き込みを試みましょう。 【A選手擁護派】 ・ A選手のゴールで優勝したんだよ。ひどい書き込みしないで。 【A選手非難派】 ・ お前は、A選手の本当の姿を知っているのか。 【慎重派】【傍観派】 ・ A選手がチームから嫌われているって、本当に確かな情報なの？ ・ 「ずるい」とか書いちゃダメだよ。A選手も、読んでいる人も、いい気持ちがないよ。 ・ 書き込みをしない。(関わると自分もエスカレートしてしまいそうだから。トラブルに巻き込まれたくないから。) ● 加奈子の書き込み(「負け惜しみなんて最低。悔しかったら、そっちもゴール決めたら。’)についてどう思いますか。 ・ A選手の文句を書かれたままで、だまっではられない。 ・ ひどい言葉を書いている人に、ひどい言葉で応酬しているので、同じレベルだ。 ・ 言い方を考えてみたらいいのに。	・ ICT機器を使って、実際の掲示板のように資料提示をすることで、ファンサイトでの書き込みの様子をリアルに提示する。 ・ 4人グループで意見交流をさせて、類型化した上で、改めて自分と同じ判断のところにネームカードを貼らせることで、話し合いを深めていく。 ・ A選手を応援したい加奈子が、悪口に対して反論することはいけないことなのかと、ゆさぶる。 ・ 前時の疑似体験で学んだ、「インターネットで書き込みをするときは慎重にする」ことを想起させる。 ・ 「A選手への悪口や批判」が「私への批判」に変わっていることを押さえることで、情報社会の特性を意識させる。
	3 資料「言葉の向こうに」を読んで、話し合う。(後半)	○ 「中傷する人たちと同じレベルで争わないで。」という書き込みを見て、私はどんなことを思っているのでしょうか。 ・ 私は悪くない。悪いのは、悪口を書いてくる方だ。 ・ 何も反応しないと、私の負けになる。負けてたまるか。 ・ A選手を守るためだったのに、自分が責められるのはおかしい。 ・ 本当に同じレベルで争っているのだろうか。 ◎ 忠告の書き込みによって、気付いた「すごいこと」とは、どんなことでしょうか。 ・ 相手の顔を思い浮かべることの大切さ。 ・ 自分の言いたいことだけでなく、相手のこともじっくり考えることの大切さ。 ・ 中傷のやりとりに関係のない人たちも書き込みを見ているので、気をつけなければならないこと。(読み手には、不特定多数の人がいること。) ・ ネットの中でも、コミュニケーションが大切であること。 ・ 直接会って話している時よりも神経を使わなくてはならないこと。	・ タイトル「言葉の向こうに」の続きに入ることばを押さえることで、「言葉の向こうにいる人々の顔」を強調する。 ・ 「なぜ、加奈子は気持ちが変われたのか」を問うことでねらいに迫る。 * それぞれの立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方から学ぶことの大切さが分かったか。(ワークシート・発言)
終末	4 教師の説話を聞く。	○ 日清食品お客様センターでの仕事について考えてみましょう。 ・ 麺に卵が乗らないという苦情を、逆にチャンスとして商品開発に生かした日清食品のように、いろんな見方や考え方を自分の成長のために生かしたいな。	・ 情報モラルの視点が印象に残りやすいので、ねらいとする道徳的価値をしっかりとおさえる。

加奈子さんの（A選手のファン）

言葉の向こうに（いる人々の顔）

A選手擁護派

A選手のゴールで優勝したんだよ。ひどい書き込みしないで。

前田 野村 大竹 黒田
河内 今村 久本 津田
中崎 梅津

A選手非難派

お前は、A選手の本当の姿を知っているのか。

松山 菊池 堂林 梵

慎重派・傍観派

ずるいとか書いちゃダメだよ。A選手も、読んでいる人も、いい気持ちがしないよ。

広瀬 丸



負け惜しみなんて最低。悔しかったら、そつちもゴール決めたら。

- ・文句をかけたままでもだまっていられない。
- ・ひどい言葉を書いている人に、ひどい言葉で応酬しているの、同じレベルだ。
- ・言い方を考えてみたらいいのに。

中傷する人たちと同じレベルで争わないで。

匿名だからこそ、あなたが書いた言葉の向こうにいる人々の顔も思い浮かべてみて。

○「すごいこと」↓忠告から気づいたこと

- ・相手の顔を思い浮かべることの大切さ。
- ・自分の言いたいことだけでなく、相手のこともじっくり考えることの大切さ。
- ・中傷のやりとりに関係のない人たちも書き込みを見ているので、気をつけなければならないこと。
- ・（読み手には、不特定多数の人がいる）
- ・ネットの中でも、コミュニケーションが大切。
- ・直接会って話している時よりも神経を使わなくてはならないこと。



忠告を受け入れる気持ち
自分の悪かったところに気付けた

